



トガリネズミラヴァー  
六田晴洋の

# 私たちの ご近所さん



VOL. 11 「エゾユキウサギ」

北海道に広く生息するエゾユキウサギ。日本にいる野生のウサギとしては最大で、体長およそ60センチ。夏は褐色の毛に覆われていますが、冬には真っ白な毛に生え変わります。他にも有名な特徴が、足の速さ。トップスピードは時速80キロに達するともいわれる俊足の持ち主です。

そんなエゾユキウサギですが、実は白糠には驚くほどたくさん暮らしています。

たくさんいるのに出会えない

白糠では牧草地や林など至る所でエゾユキウサギの足跡を目にします。写真の足跡の主の進行方向は手前から奥。エゾユキウサギは、人が跳び箱を跳ぶときのような歩き方をします。前足を地面に縦に並べて置いたあと、長い後ろ足を体の前へ運んで進むため、このような足跡が



特徴的なエゾユキウサギの足跡

残るのです。足跡はたくさんあるのに、日常生活の中で出会う機会はほとんどありません。それはエゾユキウサギが夜行性であること、警戒心がとても強いこと、全身真っ白な冬毛によって雪景色に溶け込んでいることが、出会うハードルを高めているのだと思います。

夜のドライブでウサギ探し

姿を見るのが難しいエゾユキウサギですが、夜なら話は別。足跡だけでなく、姿も見てみた人には夜のドライブがおすすりめです。夜行性のエゾユキウサギは、基本的には夜に食事をしたり歩き回ったりします。牧草地や林の近くをゆっくり車で移動していれば、道路脇にひよっこり出てきたエゾユキウサギに高い確率で出会えます。しかし



道路脇に出てきたところを月明かりだけで撮影

その出会いはいつも数秒間だけ。こちらの存在に気付くと、あっという間に暗闇の中へ逃げ込んでしまうのです。2枚目の写真は、そうやって逃げられる前にか撮影したもの。刺激しないようにライトは使わず、満月に近い日の夜、月明かりだけで撮影しました。しかし後から見返してみると、長い耳はピンと立ち、こちらにしっかり向いています。おそらく警戒姿勢に入っているのでしょう。いつか、エゾユキウサギのありのままの暮らしや、リラックスした姿も撮影したいと思っています。

## PROFILE

六田晴洋

ろくたはるひろ

1986年生まれ。

2021年に白糠町へ移住。大学卒業後、フリーランスのカメラマンやディレクターとして野生動物や自然風景を撮影している。E-mail rokuta@six-h.com

